

検査項目レファレンス／総合検査案内

腫瘍関連検査

腫瘍検査(犬)

- 悪性腫瘍発症時の早期発見
- 良性・悪性の判別補助
- 転移・再発の診断補助

TSGF法

検体採取

- 検 体 : 血清 0.5mL 冷蔵
- 容 器 : 血清分離剤入り
(採血後は凝固するまで静置した後、遠心分離し、分注後冷蔵保存して下さい。)
- 状 態 : 空腹時 (原則として食後9時間以上開けてください。)
- 発 送 : 検体は採血当日に必ず発送して下さい。
(休日前日は受付は不可)

検査一般

- 検査方法 : TSGF法 [生物化学(バイオケミカル)]
- 基準値 : 陰性:<62 擬陽性:62≤~<71 陽性:71≤ (U/ml)
- 所要日数 : 2~5日

臨床情報

測定原理及び臨床的意義

ヒト用TSGF(Tumor Supplied Group of Factors)検査試薬の小動物(犬)への応用により悪性腫瘍の発症確認を可能としました。

腫瘍細胞が悪性転化する時、腫瘍マーカー(TM)としてアミノ酸類(フェニルアラニン・チロシン・水酸基のプロリン)、糖鎖を構成する単糖類(N-アセチルグルコサミン、N-アセチルガラクトサミン、N-アセチルノイラミン酸、N-グリコリルノイラミン酸)、糖蛋白質(α1-酸性糖蛋白質)などが増加します。これらの増加物質は微量であるため、感度的に測定・検査することが困難でした。TSGF検査試薬はこれら複数のTMに対して同一の測定系で生物化学的に発色させ吸光度を総和量として濃度換算し、悪性腫瘍の発症確認を行ないます。発症部位の特定は行えませんが、悪性腫瘍の早期発見検査として、更に良性・悪性の判別補助及び転移・再発の診断補助として有効な検査です。(大阪府立大学で治験検証)

異常値を示す疾患

肝臓腫瘍 肺腫瘍 乳腺腫瘍 甲状腺腫瘍 膵腫瘍 肛門腫瘍 骨肉腫 リンパ腫
その他悪性腫瘍 高血糖疾患 炎症性疾患
※病理診断における「良性腫瘍」に関しては、高い確率で陰性を示します。

偽陽性、偽陰性 要因

[偽陽性要因] 溶血血清 乳び血清 食餌負荷 高血糖疾患 炎症性疾患
[偽陰性要因] 血中にTM濃度の有意な上昇が見られない場合